

## 令和5年度 第1回湖西市下水道事業審議会 議事要旨

1. 日 時：令和5年8月1日（火曜日）14:00～16:00
2. 場 所：湖西浄化センター2階会議室
3. 出席者  
会長)  
愛知大学地域政策学部 教授： 菊地 裕幸 氏  
  
副会長)  
静岡大学工学部 教授： 宮原 高志 氏  
  
委員)  
有限責任監査法人トーマツ 公認会計士： 今瀬 彰夫 氏  
湖西市自治会連合会 会長： 板倉 福男 氏  
特定非営利活動法人ママライフバランス 副理事： 大倉 昌子 氏  
  
事務局)  
湖西市環境部下水道課  
日本水工設計株式会社
4. 概 要
  - 1) 市長挨拶
  - 2) 委員委嘱式
  - 3) 委員紹介
  - 4) 会長及び副会長選出
  - 5) 諮問書の交付
  - 6) 審議事項
    - (1) 本審議会の概要
    - (2) 現行経営戦略の確認
    - (3) 現行経営戦略における「取り組むべき施策」の実施状況
    - (4) 現行経営戦略における実施状況の現状分析
    - (5) 経営指標等による分析
    - (6) 経営戦略の見直し方針（案）
    - (7) 次回審議会について

## ①資料に対する質疑応答

1. 本審議会の概要
2. 現行経営戦略の確認
3. 現行経営戦略における「取り組むべき施策」の実施状況

1～3 に対する質疑応答

委員 12 ページについて、年に何回も研修などに参加したということだが、これで延べ何人がスキルアップしたのか。参加した回数も大事だが、参加した人の個の財産だけでなく、湖西市への還元がどのくらいされるのかということが気になる。

接続促進について、令和3年度で419件、令和4年度で421件などとなっているが、この数字が大きいのか小さいのかがわからない。

事務局 最初の質問について、工務係で従事している者で、実際にこの研修に携わっているのは3名程度である。現実としてかなり厳しいところがあるが、ここでまずスキルアップをしていこうということである。

2つ目の質問については、この後、経営分析等にて詳しく説明をさせていただきたい。

委員 今回、実際にどういった取り組みをしてきたかをご説明いただき、他の団体さんを見ていると、経営戦略を作って評価・検証を行っていない団体もいる中で、しっかりと取り組むべき施策に対して評価・検証を実施されているため、経営戦略を事業運営に活用できているという感想を述べさせていただく。

5ページにて、計画期間が令和6年度から令和12年度で10年間とされているが、現行の経営戦略を策定した令和2年度をスタートとして12年度までの10年間を計画期間とし、令和2年度から令和4年度までは実績を使い、残りの期間の見直しを行うという、計画の立て方ということでしょうか。

事務局 仰るとおり、今回は中間ということで、当初の計画の10年間のうち、8年分の見直しということである。

委員 16ページの汚泥の共同処理を行う施設について、市内の浄化槽の汚泥などを全てここで受け入れるという計画なのか。

事務局 仰るとおり、下水だけでなく、市内のし尿・浄化槽汚泥についても、こちらで受入を行う。

委員 12ページの財政の健全化のところ、接続促進の件数が令和3年度で419件、令和4年度で421件ということだが、下水道をせつかく整理したのに、接続がされてないというのはやはり財政の観点からも問題だと思われ、ぜひ接続促進を進めていただきたい。このような実績があった中で、実際に接続をしてくれたという方はどれぐらいいたかかというのはわかるものか。

事務局 若干ではあるが、水洗化率が向上しているため、多少効果はあったものと考えている。

4. 現行経営戦略における実施状況の現状分析

5. 経営指標等による分析

4～5 に対する質疑応答

委員 24 ページの維持管理にかかる経費について、令和5年度の実績では維持管理費がぐっと上がっているのは、エネルギー関係が原因か。

事務局 令和4年度について、動力費が想定の倍以上になっていることを踏まえ、令和5年度は予算計上している。

委員 19 ページにて、なぜそもそも接続されていないのか、なぜ100%ではないのか、接続強化が必要な背景、歴史的背景等を教えていただきたい。

事務局 湖西市の場合は平成12年度の供用開始から20年少しで、昭和初期から行っている水道事業とは違い、まだ拡張期にある。下水道が整備されるまでは浄化槽が整備されていて、まだ浄化槽が使えるということで繋ぎ替えを見送られているという状況もある。我々としてはなるべく下水道接続を推進させていただきたいが、利用者の方の生活への影響を考慮する必要がある。

委員 処理水量と有収水量のグラフについて、令和4年度が計画から乖離している原因が新型コロナウイルスの影響による処理量の変化というのはあまりに漠然としている。何がどう変化したからこうなったというのを、もう少しわかりやすい説明が欲しい。

事務局 わかりづらい表現だったと思う。次回の第2回審議会では、財政シミュレーションを示させていただくが、収入についても時系列の分析等を行うつもりでいる。整備は進んでいるので、水量のデータが令和3年度から令和4年度にかけては、右肩上がりになると思われたのが逆に減っている。これは令和3年度の水量が新型コロナウイルスによる自宅の待機時間が長かったことなどにより、多かったためだということが想定される。

令和5年度に入ってから、7月までのデータからはやはり前年よりも下がっており、ようやく実際の水量になってきたのではないかと思う。もう少し客観的にみて、今後、妥当な水量をみて、収入の予測を立てなければならないと考えている。

委員 今年度もやはり右肩下がりになっているということであれば、最初からもう破綻するような、感じになってしまう。経営戦略での見極めが必要ではないか。

事務局 単純に、直近5年のデータを取ると、令和3・4年度の水量の多いデータを使用してしまうので、もう少し、その前後をみて、将来予測をしたいと思う。

委員 18 ページの整備率について、実績が50%程度だが、これは今の計画区域に対する実際の整備された比率でよいのか。

事務局 仰るとおりである。

委員 33 ページの一般会計繰入金について、これから下水道の整備を行うと財源が必要となり、今後更新工事も順次開始され、繰入金が増加する見込みである。これは投資に

対して一般会計繰入金を財源とするために増えていくということになるのか。

事務局 投資に対して半分は国庫補助金で、残りが起債で、起債の償還が少しずつ下がっていくので、一般会計からの繰り入れが減る見立てになる。ただ、今後施設関係が大型改修というものがあることを受け止めて、収支の計画をまずシミュレーションしていくということになる。

委員 さきほど接続率の話があったが、下水道に接続してもらうためには使用料が高すぎても接続者が増えないので、福祉や教育など市の税金の適切な配分を検討いただいて、市の財源を下水道にどのくらい基準外繰入金として振り分けていくかといった点を、次回以降で検討していくことは理解した。

36 ページでまとめていただいているが、更新や維持管理を行っていく中で、経費回収率 100%を目指せば当然料金を上げないといけなということになるし、接続率を上げようとするとなかなか料金を上げづらいという部分が出てくる。計画に沿って整備を進めれば財源が必要になるので、どこを優先するのかという順位をつけて私達に説明していただけると理解しやすいので、お願いしたい。

事務局 次回の審議会では財政シミュレーションの計画を見直していくが、現段階で我々の分析として感じたことが3つある。ひとつは汚水整備で、現行経営戦略の整備計画では令和 23 年度までに完了を目指すということだったが、これにギャップがあること。もう一つは維持管理費が、社会情勢等によるエネルギー費の上昇等から想像以上で、このままでは収支のギャップが当然発生してしまうこと。

もう一つは、今はかなり社会情勢がかわり、特に人口減少という中で、何でも拡張するというわけではなく適正な整備をある程度戦略的に考えていく必要がある。それを踏まえ、この8年間について、現実に整備の出来る範囲に見直すということを考えていけば、収支ギャップはかなり縮まると思われる。そういうものを次回お見せできればと考えている。

6. 経営戦略の見直し方針(案)

7. 次回審議会について

6～7 に対する質疑応答

<特に質疑無し>

## ②全体を通したご意見

委員 下水道は 1 回作ると長期にわたって維持を行って初めて価値が出てくるもの。将来展望をしっかりと行い、適切なサイズ感をもって、しっかりとメンテナンスを行うことが大事。周りの市ともうまく連携をして効率的な経営になるといいと思う。水洗化率のこととも関連するが、例えば、合併浄化槽から下水道に接続する際に、オンラインで

申請できるようにしたり、2次元で管理していたものを3次元化したり、将来的に業務効率を上げることにつながるデジタル化について余裕があるときに検討するのも大事なのではないか。

委員 今日資料を読ませていただいて、現状分析はよくできている。下水道事業は使用料収入だけで賄うということができない事業だということは、湖西市に限らず、私が見てきた東海圏の市町村でもやはりなかなかできていない状況で、一般会計繰入金を入れて何とか事業を継続しているという団体が多くみられる。将来世代のことを考えると、現役世代から相当の使用料をもらうとか、これから人口が減っていく中で、整備面積をどこまで広げていくかを考えなければならないということが湖西市の状況と思われるので、次回以降の審議会将来シミュレーションを見せていただきながら、より良い案を検討していければと思う。

委員 今日の説明で感じたのは、水洗化率がなかなか上がらないことが大きな問題なのではないだろうか。せっきくの浄化設備があるにもかかわらず、それを使わないのはもったいない。水洗化率を上げていく努力が、これからますます必要になるのではないかなと思うので、ここを重点的に進めていってくださればいいのではないかな。もう一つは、今日の議論の中では出てこなかったが、一般の方の話の話を聞くと、浄化設備はかなり整備されて、排水がきれいになったが、浜名湖のあさがりが取れなくなったという話をよく聞く。この因果関係は無いことを証明するか、水が汚くなるようなことはあってはいけないという考えを市民の皆さんに十分理解していただき、設備の整備を進めていくことが必要ではないかなと思う。

委員 知らなかったことが多くて、まずそれを知れてよかった。これは市民もみんな一緒だと思う。選択肢が増えるためには認知が必要で、例えば発電量は何ワット発電しています等が表示されるが、接続した戸数が増えるとか綺麗になったということが市役所や処理場で表示されるとか、成果が見えたらいいと思っている。行政にこうして欲しいとただただ要求するだけが市民の役割ではない。市民自身が選択できるようになる必要がある。マンホールカードもSNSで見たことがあるが、ちょっと面白いなと思ったら早速私も広めたいと思う。こういうツールであるとか自分の選択が湖西市や自分の暮らしを良くしたということがよりわかるようになるといいかなと思う。広く浸透していくためには、仕組みを作って、知っている人を増やしていけたらいいのかなと思う。そのくらい楽しいことであってもいいのかなと思う。深刻な部分とライクの部分が両立すればインパクトが出るのではないかなと思う。この膨大な資料を作ってくれた皆さんへ、ありがとうございます。大変よくわかりましたので、これからも貢献できると思う。

委員

本当に膨大な詳しい資料をありがとうございました。前回の経営戦略を策定してから、コロナをはじめとした様々なことが起き、エネルギー価格も高騰し、市民生活に大きな影響が出ている。このような突発事項はどうしようもないことであるため、この状況を踏まえて、臨機応変に改定をしていただくということが重要である。

大変かとは思いますが、市民目線に立って改定をしていただきたい。

また、たくさん資料を作っていただいているが、市民が見たときに、ちょっと難しいと思う。現状分析を行っていただいているが、湖西市の下水道事業は何が問題なのか、財政は危ないのか危なくないのか、そういったところがわかりにくいところが私自身はあった。途中で事務局の方からポイントが三つあるということで、一つは整備が遅れているということ、それからもう一つは、維持管理費が想定以上にかかっていること、三つ目は、人口減少を踏まえ、適正な整備をしていく必要があるという説明があって、事務局が言いたいのはそういうことなのだとわかった。資料には非常に高尚な文言が書かれているが、市民にご説明していただく際には、わかりやすいご説明と周知をお願いしたい。